

# ふるさと奥尻通信

平成28年11月30日  
奥尻町教育委員会発行  
事務局:01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

## 巻頭言

歌謡曲「憧れのハワイ航路」昭和23年発売。ハワイ航路とは横浜 - ホノルル - サンフランシスコなどを結んでいた。大正、昭和戦前期は日本郵船会社の花形航路だった。

## 特集 憧れの奥尻 - 江差航路① 定期船編

奥尻島も冬期間に入りまして、島の大動脈である定期航路も、奥尻 - 江差間を一往復するのみにになりました。その定期航路を彩ったフェリー就航前までの歴代定期船をご紹介します。

### ①「三島丸」(M086)

明治期には小樽から日本海沿岸を寄港して回る定期船や、戦中、戦後しばらくまでは青森から物資を積んで物々交換する”生積船”が主流でした。その中で、戦後から奥尻 - 青苗 - 江差間を往復したのが「三島丸」です。150トンの中型船で、道南海運株式会社が運行しました。同社は昭和13年12月1日に奥尻で設立され、同15年2月に本社が函館へ移転しました。

### ②「第弐三島丸」

続いて航路を引き継いだのが「第弐三島丸」(133トン)です。先代よりもやや小さく、郵便船を示す㊦マークと船体に「DONAN-LINE」とマーキングされていました。このころ、道南海運では島内のバス運行事業(昭和48年に町へ譲渡)や自動車整備工場(後に町へ譲渡)も経営していました。



青苗港に入港する「三島丸」 昭和20年代後半



江差港へ向かう「第弐三島丸」 昭和30年代

### ③「第参三島丸」

トン数不明ですが、先代よりも一回り大きくなり、大型の貨物も積み込めるようになりました。そのため、当時を知る人は「まるで貨物船みたいな船でよお…」と懐かしく話します。昭和42年のフェリー就航頃まで走りました。船体に「DONAN-LINE」とマーキングされていました。右下段二枚目の写真ではマスト間に万国旗が飾られており、何かおめでたい記念行事があったものと思われる。

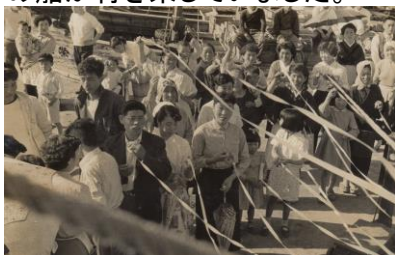
### ④「おくしり丸」

「三島丸」系統とは別に、昭和35年建造の「おくしり丸」(135トン)もありました。右列最下段の写真を見ますと、春に中学校を卒業した生徒が進学や就職で離島する場面と思われます。この頃、都会の労働者不足を補うため、地方から中卒労働者が大挙して都市部へ就職しました。かれらは”金の卵”と呼ばれ、日本の高度経済成長期を支えました。

その他、青苗 - 江差間を第2おくしり丸(76トン)、利礼丸(135トン)、利尻丸(135トン)、礼文丸(234トン)、奥尻丸(328トン)などの船が行き来していました。



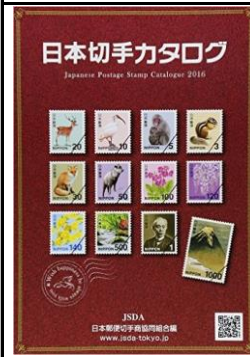
奥尻港に入港する「第参三島丸」 昭和30年代



離岸する「おくしり丸」 昭和40年代



第五ひやま(HIYAMA No5)の就航は昭和62年(1987)5月1日のことでした。就航記念の式典を船内で行い明上甲子雄町長が挨拶しているところです。1599トン、乗客570名、4000馬力、最高速力17.66ノット、航海速力15.75ノット。広島県尾道市の内海造船瀬戸田工場で建造されました。これまでは奥尻-瀬棚間を第一ひやま(786トン)が、奥尻-江差間を第二ひやま(998トン)で運行していましたが、大型化して輸送能力が大幅に向上したことになります。平成5年の震災時は、僚船の「ニューひやま」(2258トン)とともに運行されましたが、当日は奥尻港に係留されていなかったため、難を逃れました。奥尻にあった「ニューひやま」は津波襲来の中、港外へ脱出に成功しています。平成11年(1999)にアヴローラおくりりが就航するのに伴い、奥尻-江差航路から利尻-礼文航路に移り、船名もアインズ宗谷2(EINS SOYA2)に変更されました。その後、同船は同15年に引退し、インドネシアへと売船されました。



学芸員オススメの一冊をご紹介します。本は海洋研修センター図書室で借りられます。

日本切手カタログ2016  
日本郵便切手商協同組合

世の中メール社会に切り替わりつつありますが、まだまだ郵便制度は健在です。最初の普通切手は旧暦明治4年(1871)の「竜文切手」で額面は48文でした。最初の記念切手は明治27年(1894)の「明治銀婚」切手で額面は2銭と5銭でした。切手の種類とその評価額(標準販売評価価格)が記されていますので、コレクションの整理に必要不可欠なバイブルです。

月刊 奥尻のつり 11月号

引き続き奥尻港内はイワシやサバをサビキ釣りで釣っていく人たちがにぎわっています。しかし、11月下旬になってもイワシの群れが濃く、連日の大漁にちょっとしたイワシフィーバーが沸き起こっています。誰もがバケツを満杯にするだけ釣れてしまいますので、魚の処理能力が追い付かなく、道ゆく人にどんどんおすそ分けされていきます。釣れる時間帯も朝だったり、午後だったり、夕方だったり、日によって違いがあり、魚の群れが寄っているかどうか、海鳥の集まり具合で判断します。逆に人が集まってくるとおこぼれを狙うカモメの姿もちらほら。一方、今年はブリ(ワラサ程度)が岸寄りしているようで、弁天岬ではアングラーが集っています。上手い人で10本程度釣り上げたとのことですから、ブリの北上が顕著になっています。

昭和奥尻生活詩 新谷清二の鳥賊つ1ヶ月 第15回

釣石尋常小学校高等科二年生 文集「鳥の子」第八号より

だ入へを島 沖た尻とま  
月 っれ今下を来だ。丸、っ寝  
夜 たた日ろ作 たっ 今が兵てて  
の。こしてら た日釣隊い起  
美 隣そてて船。は懸がるきた  
しいのつ釣いが 早方乗ので  
い おけたか 出へっでら  
晩 父るた。た 出むて、船  
だ もど。俺ま 発かいる行に  
つ 一 達 して っる っ他  
づ た。生腕 はて たてとて所  
く。懸力 すい。行言見人  
。 命を 錨。 遠 奥 集

しにか数ほさのら今りれ町  
たプリ人、れ負芸年、民十一  
。ラでか精ま担能は大四総  
モはら巧しが発午変六合五  
談な展なた少表後に四文五  
義く示プ。なをのぎ名化・  
に、さら展い行明わの祭六  
講大れモ示よいるい参が日  
じ人、デ部う、いま加開  
ても子ル門に参うし者催恒  
い熱供がで考加ちたがさ例  
ま心ば複慮者か。あ の

文化祭今年も盛大に



どんどん釣れる!

ままになて運判にのがり協暖る  
すりはかい日りに関が、協議化と地球  
。、十つまいまわ現ま定の対よ地球  
大名たすワせる状だな上策くは温  
いほ光。シンので先ど、と言温  
にど景近のがかす行を、京しわ暖  
にもで年大、ど。き定都てれ化  
ぎ釣すで群奥うさはめ議世てが  
わり。はで尻かて不て定界お進  
つ客多見あ港は、透い書各りん  
てがいらふでよそ明まや国、で  
い集日れれはくれなすパが温

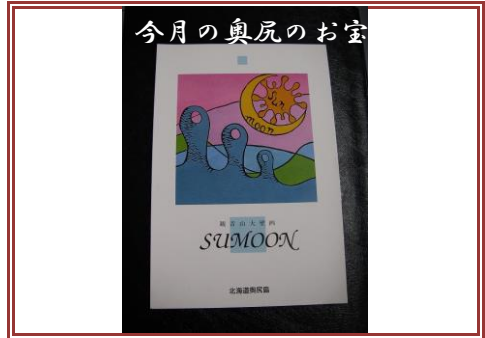
なぜかイワシ大漁

いでた司賞久かはづば岩べ  
今岩。屋金しり、のかへく、今  
日場そではぶ、四大り釣、年  
こにのキ、り六人会で行島も  
の立後レそに名cmを空の、大  
頃てはイの大の中、の兼振一西物  
ず、時に日会の優最クた。目岸、イ  
、化消の優最クた。目岸、イ  
物てう勝大ゾ二釣は、イ  
足ばまち。身イ回りカ屏を、イ  
りかしに魚長が目クジ風釣、イ  
なり 寿とで掛 ラカ立る

新茶之記録(編集後記)

画はか連ツ来す館た万ーり業  
が、ら休ア島がし。人九まを奥  
必展のにし、て概を人し終尻  
要示入偏客る津いね下のた。了島  
かとの館りが客波る来回入。し、津  
れをち中割入算者てに期冬館、波  
替獲です合館にのしは季が今  
え得するはをな四ま延休今  
やす。夏低目の割り、九にの  
新る地季、く、的のががま、九にの  
企に元や、にで入し一三入営

奥尻島津波館今期営業終了



大壁画サムーンの絵葉書